

2007年(財)交流協会 日本語教育冬期研修会  
協働と協働学習

東京海洋大学海洋科学部 池田玲子

## 1. 協働の表記と意味

- 1) 協働
- 2) 協同 協調
- 3) 共同
- 4) 教導 ×
- 5) 経堂 ?
- 6) コラボレーション
- 7) コーポレーション
- 8) collaboration

## 2. 協働の背景

- 1) トップダウン体制の変革  
管理 連携 協働  
教師主導 学習者中心 学習者主体
- 2) 個の追究から全体性の回復  
関係性・信頼性の回復
- 3) 競争・競合から協働への転換  
競争の教育 協働の学び

## 3. 協働の諸相

- 1) 協働による地域政策(町づくり)
- 2) 企業間協働 グループウェア
- 3) 芸術界のコラボレーション
- 4) 協働行為と認知(認知科学)
- 5) 学校教育の協働・協働(協同)学習
- 6) 協調的コミュニケーション(ビジネス交渉)
- 7) 協働的紛争解決(国際紛争)
- 8) 協働型議会(地方議会制度)
- 9) 協働的建築デザイン

## 4. 協働の定義

- 1) 各成員は異なる役割を担い、個々の能力を発揮する。さらに構成員の努力した結果が、相互作用によって、構成員個々の成果の総計以上のものになる。 Lepper & Whitmore 2000
- 2) 作業のプロセスそのものが、参加者同士、お互いに理解、啓発、刺激のし合い、自己実現の場ともなり、参加した全員がある程度の達成感や満足感を得られる。さらには相互の信頼関係も生まれるという相乗効果を生むもの。 野沢 2004

## 5. 新しい学びの考え方

(従来) 銀行預金型

教師主導  
一斉授業形態  
競争  
個人単位  
限定されたゴール

(新) 協働学習

学習者主体  
参加型形態  
協働  
小さいグループ  
創造を目指す

## 6. 新しい学びの方法

### 協働の学び

対話的問題提起学習  
参加型学習  
LTD(討論型)  
ケースメソッド  
ワークショップ  
など

## 7. 日本語教育と協働学習

### 学習観の転換

人間の学びは社会的相互行為の中で

× 知識積み上げ

ことばと文化の関係

ことばの学習は自己拡大

× 文化同化

協働学習

## 8. 日本語教育の協働学習

対等 対話 互恵性 プロセス 創造

前提：異文化同士の**対等性**の保障

手段：**対話のプロセス**を通して

目標：**互恵的な創造**を生み出す

(池田 2007)

## 9. 協働学習実施の困難点

1) 学習観

2) 教師観

3) 授業形態

学習者と教師にとっての困難

\* 移行期のデザイン上の工夫

\* 教師の研修の重要性

## 10. 協働学習のデザインポイント

1. どんないssue?
2. 活動方法は?
3. 個の学習とピア学習は?
4. 内省活動は?
5. 1回の授業の流れは?

## 参考文献

- 1) ジョンソン, D.W., ジョンソン, R.T., ホルベック, E.J. (2004) 『学習の輪 アメリカの協同学習入門』 二瓶社
- 2) シャラン, Y., シャラン, S. (2001) 『協同による総合学習の設計』 北大路書房
- 3) 杉江修二, 関一彦, 安永悟, 三宅なおみ (2004) 『大学授業を活性化する方法』 玉川大学出版
- 4) ジョンソン, D.W., ジョンソン, R.T., スミス, K.A. (2005) 『学生参加型の大学授業 協同学習への実践ガイド』 玉川大学出版部
- 5) 植田一博, 岡田猛 (2000) 『協同の知を探る 創造的コラボレーションの認知科学』 共立出版
- 6) 佐藤郁衛, 齋藤ひろみ, 高木光太郎 (2005) 『外国人児童教科と日本語シリーズ 小学校JSLカリキュラム「解説」』 スリーエーネットワーク
- 7) 岡崎眸 他 (2005) 『共生時代を生きる日本語教育』 凡人社
- 8) 大島弥生, 池田玲子, 大場理恵子, 加納なおみ, 岩田夏穂 (2005) 『ピアで学ぶ大学生のための表現法』 ひつじ書房
- 9) 池田玲子, 館岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門』 ひつじ書房

2007年1月30日-2月4日

(財)交流協会 2006年度日本語教育冬期研修会

ピア・ラーニング:協働による創造的な学びの場をデザインする

## ピア・リーディング

東海大学留学生教育センター 館岡洋子

### 1. ピア・リーディング誕生の背景

#### 【背景1】読解授業の現場での疑問点・問題点

読解授業では何をするのか

読解授業の中で、読み手の問題点は十分に扱われているか

読解授業の中で行う「話し合い」は読むことと十分に結びついているか

#### 【背景2】読むこととは：個人の読解過程の研究から

読解過程 = 問題解決過程（自問自答）

ズレから学習

「読んで学ぶ」ことの2つのモデル（Kintsch：テキストベースと状況モデル）

自問自答を他者とやってみてはどうか？

#### 【背景3】学習観・教育観の転換 教育におけるパラダイム・シフト

頭に詰め込むこと、貯めこむことから体験・実践の重視へ

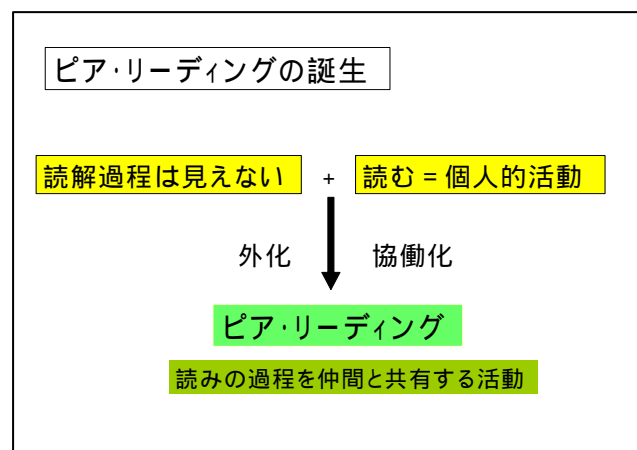
### 2. ピア・リーディングの定義

学習者同士が助け合いながら、  
テキストを理解していく読みの活動

仲間(peer)と学ぶ

結果のみでなく「過程」も共有

過程の「可視化」：頭の中を外  
に出す



### 3. ピア・リーディングにおけるピア（他者）

(1) 調査：他者との相互交流によって何が起きているか

- 館岡（2000）...ペアによるピア・リーディング
- 館岡（2006）...グループによるピア・リーディング
- 館岡（2003）...クラス全体でのピア・リーディング

(2) ピア・リーディングにおけるピア（他者）の役割

リソースとしての他者 = 「1 + 1 + 1 + ...」

仲間から直接に「知識」や「方略」が学べる

教師とは異なった観点からの相互教授

ピアが増える = リソースが増える

対話の相手としての他者 = 「1」自体の変容

自己と異質の他者とのズレによって、自己を見直す機会が与えられる

他者からの質問やコメントが得られる

他者への説明を通して自己の考えが整理される

他者を通して自己を見直す

社会的関係性の構築と情意面から見た他者

他者とどのように関係づけるか

動機づけへの貢献

ピアによる共構築

協働して作り上げていくもの

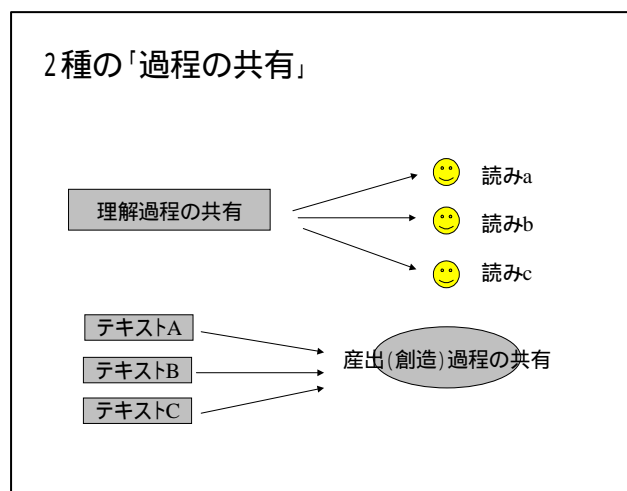
### 4. 2種のピア・リーディング

(1) 理解過程の共有

...プロセス・リーディング

(2) 産出過程の共有

...ジグソー・リーディング



5. ミニ体験（プロセス・リーディングとジグソー・リーディングの組み合わせ）

- プロセス・リーディング...同一テキストの読みの過程を共有する
- ジグソー・リーディング...異なったテキストの情報を統合する

6. まとめ

(1) 個人

対話を通しての知識構築活動

- ・他者から直接に知識や方略が学べる
- ・他者を触媒として、自己を見直す機会が与えられる

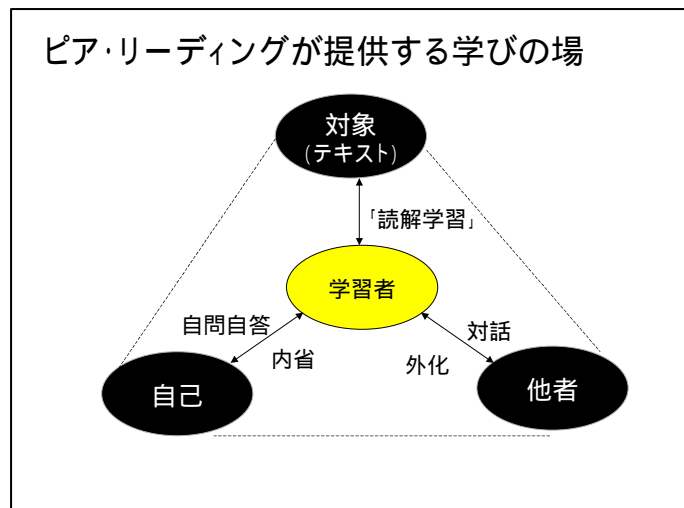
社会的関係性の構築への学び

(2) 教室という「場」...対話的实践を通しての相互交流の場の創出

- ・問題解決プロセスに言語使用が埋め込まれている
- ・役割の非固定化、互惠性、主体的参加、責任
- ・動機づけ
- ・対話の場としての「学びの共同体」の形成と「集団的学び」

(3) 教師の役割

- ・「学びの場」のデザイナー
- ・インストラクター
- ・ファシリテーター
- ・コーチ
- ・コーディネーター



## 参考文献

- 池田玲子・館岡洋子 (印刷中) 『ピア・ラーニング入門』 ひつじ書房
- 大村彰道 監修、秋田喜代美・久野雅樹 編(2001) 『文章理解の心理学 - 認知、発達、教育の広がりの中で - 』 北大路書房
- 門田修平・野呂忠司 (編著) (2001) 『英語リーディングの認知メカニズム』 くろしお出版
- 館岡洋子(1999) 「テキスト・読み手・外部リソースの相互作用」 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要 22』 1-24
- 館岡洋子(2000) 「読解過程における学習者間の相互作用 - ピア・リーディングの可能性をめぐって - 」 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要 23』 25-50
- 館岡洋子(2001) 「読解過程における自問自答と問題解決方略」 『日本語教育 111 号』 66-75
- 館岡洋子(2002) 「日本語でのアカデミック・スキルの養成と自律的学習」 『東海大学紀要 留学生教育センター』 第 22 号 1 - 20
- 館岡洋子(2003) 「読解授業における協働的学習」 『東海大学紀要 留学生教育センター』 第 23 号 67 - 83
- 館岡洋子 (2004) 「対話的協働学習の可能性」 『東海大学紀要 留学生教育センター』 第 24 号 37-46
- 館岡洋子(2005a) 『ひとりで読むことからピア・リーディングへ - 日本語学習者の読解過程と対話的協働学習 - 』 東海大学出版会
- 館岡洋子 (2005b) 「読解指導の理論と実践」 東海大学留学生教育センター編 『日本語教育法概論』 東海大学出版会
- 館岡洋子 (2006a) 「読解授業における教師主導と協働的学習」 『東海大学紀要 留学生教育センター』 第 26 号
- 館岡洋子 (2006b) 「協働的学習はいつも学び合いになるか」 『高見澤孟先生古希記念論集』

## 参考資料

朝、上野の不忍池にカモを見に行った。狩猟解禁中は身の危険を知って、関東一円からここに集まってきて、二千羽になるという。寒くなるほどに美味な肉を持ったのがカモの不運で、日本では年に九十万羽がハンターの前で命を落とす。散弾で傷ついたカモも緊急避難でやって来る。世話をしている上野動物園の職員は、毎年の常連も識別できるそうである。朝と夕、餌を積んだライトバンが池畔に来ると、「ググググ」と一斉に低い声を出して、近づいてくるのは壮観だ。

水面でくると逆立ちをして、おしりだけ出して水中の餌をあさるのはマガモ、オナガガモだ。ハシビロガモのように長くて幅広い便利なクチバシを水面につけて、忙しそうに泳ぎ回っているのもいる。水は、濁り、深さもせいぜい二十センチの池だが、ここだけは人間にカモにされない彼らの安全地帯である。(以下略)

市古貞次ほか編 『精選国語』(明治書院)より

2007年(財)交流協会 日本語教育冬期研修会(台湾)  
ピア・ラーニング:  
協働による創造的な学びの場をデザインする

## ピア・レスポンス

東京海洋大学海洋科学部  
池田玲子

## 1. 添削指導の問題点

1. 作文の学習は文法・語彙の学習と同じか。
2. 何のために日本語で書くのか。
3. 読み手は誰なのか。
4. 教室で一人で書く時間は重要か。
5. 教師はどこまで添削するべきか。
6. 教師はどこまで添削できるのか。

## 2. 協働的作文活動

\*ピア・レスポンス=協働作文(推敲)活動

### 【定義】

作文学習の中で学習者が自分たちの作文をより良いものにしていくために仲間(peer)同士で読み合い、意見交換や情報提供(response)を行いながら作文を完成させていく活動(池田 2004)

## 3. ピア・レスポンスの利点

1. 読み手に伝えるという目的が明確
2. 分析的読みの学習
3. 現実の課題で統合的な言語学習
4. 学習の緊張感が低く、自己能力が発揮
5. 活動を通して仲間との信頼を築く
6. 競争性と協力による学習の動機付け
7. 書き手としての責任意識の育成

## 4. 英語母語ピア・レスポンスの場合

1. アウトラインを再生 + 批判的コメント
2. アウトラインの再生 + 批判的コメント
3. アウトラインの再生 + 批判的コメント
4. アウトラインの再生 + 批判的コメント

評価  
繰り返す

批判的読み  
論理展開のある文章のチェック

## 5. ピア・レスポンスの問題点

ESL(英語第二言語)

東アジア系の学習者は仲間のフィードバックに対し、否定的な感情を持つ  
中国人は相手の作文の指摘をしない  
日本人はコメントを控える

ほんとうにそうなのか?  
(池田の疑問)

## 6. 東アジアの学習者と教師

配慮すべき点  
学習観の違い  
教師イメージ  
学習経験

工夫  
緩やかな導入  
目的の明示  
教師支援

## 7. 導入活動 (約3時間)

1. これまでの学習の振り返り
2. 活動の目的、意義、効果の理解
3. レスpons活動時の注意点
4. レスpons後の推敲

## 8. 有効な話し合いのために

話し手(書き手)

語りかけるように

聞き手の反応をしっかり受け止める

聞き手(読み手)

相手の言いたいことを受け入れる  
面白いところ、賛成部分を探す  
小さなことでも口に出してほめる  
自分の考えを押し付けない

## 9. 活動参加態度 (研究結果から)

効果的なタイプ

協力的  
探求的

効果的でないタイプ

権威的な態度  
自己主張が強い

## 10. 活動目的

書き手の目的

- ・自分の文章がどう読まれるかを知る
- ・話し合いから改善のための手がかりをつかむ

読み手の目的

- ・分析的に読むことで書き手の意図をくむ
- ・相手の文章をよりよくするために協力する

## 11. 日本語ピア・レスポンス (池田)

活動手順

1. 上手だと思うところを言いましょう
2. 自分と似ている部分を言いましょう
3. 自分と違う部分を言いましょう
4. 質問をしましょう
5. もっと説明してほしいところがあれば言いましょう
6. 意見やアドバイスをしましょう



## 12. デザインのポイント

- 1) 意義や手順についての十分な説明
- 2) 余裕のある時間配分
- 3) 活動開始のための援助
- 4) グループ編成時の配慮
- 5) 無理のない練習課題
- 6) 活動中の教師介入
- 7) 内省活動
- 8) 他の推敲活動との組み合わせ

## 13. グループ編成のポイント

- 2名から4名 (途中の統合も可能)
- 母語の効果的な使用
- 多様な学習要因 (言語に限らない)
- 活動開始の支援 (教師から)
- 参加態度の観察から得た手がかりをもとに次回の編成を工夫

## 14. 教師の役割

- 活動のデザイン
- 学習の人的リソース (情報提供)
- 活動の支援 (適度な介入)
- 活動中の観察・記録
- 言語形式の最終チェック (添削)

## 15. 振り返り (内省活動)

- 良かった点 (相手のレスポンス・活動の意義)
- 悪かった点 (自分の参加態度・推敲)
  
- どんな相手が話しやすいか
- どんな相手と話したくないか
- どんなレスポンスが欲しいか

## 16. 注意!

- 作文を書かせる前に、後でピア・レスポンスを行うことを言うておく。
- 後で教師添削をすることを知らせておく。
- 開始時に活動が停滞していても、すぐには支援しない。
- 活動がうまくいかないのは、自分にも半分以上の責任があるということを言うておく。

## 参考文献

- 池田玲子・館岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門』ひつじ書房
- 池田玲子(1999)『ピア・レスポンスが可能にすること - 中級学習者の場合』『世界の日本語教育』9号 国際交流基金 pp.29-43.
- 池田玲子(2002)『第二言語教育でのピア・レスポンス研究 - ESLから日本語教育に向けて -』『異文化と日本語教育』2002年増刊号 お茶の水女子大学日本言語文化学会研究会 pp.280-310.
- 池田玲子(2004)『日本語学習における学習者同士の相互助言(ピア・レスポンス)』『日本語学』1月号 明治書院 pp.36-50.
- 大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・岩田夏穂(2004)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房
- 池田玲子(2005)『アジア系学習者のピア・レスポンスでの学び』岡崎暁・池田玲子 他編集(2005)『共生時代を生きる日本語教育』凡人社 pp.203-224.
- Dona Ferris & John S. Hedgecock(1998) *Teaching ESL composition Purpose, Process, and Practice*. Lawrence Erlbaum associates, publishers, Mahwah, New Jersey.
- Murray,D.(1993) Collaborative writing as a literacy event: implications for ESL instruction.In Nunan,D, ed. *Collaborative Language Learning and Teaching* Cambridge: Cambridge University Press.
- Peter Elbow (1998) *Writing without Teacher* Oxford University Press New York Oxford
- Reid,J.(1993) Collaborative and Cross-Cultural Activities, *Teaching ESL writing*, Englewood Cliffs,NJ: Regents/ Prentice Hall.

2007年1月30日-2月4日

(財)交流協会 2006年度日本語教育冬期研修会

ピア・ラーニング:協働による創造的な学びの場をデザインする

## ピア・ラーニングとは

東海大学留学生教育センター 舘岡洋子

### 1. ピア・ラーニングとは

ピア(仲間、peer)同士学ぶ学習方法

「教室だからこそ」できることは?

### 2. 学習観・教育観の転換

#### (1) 認知過程と社会とのかかわり

学習を見直す: 学校で学んでいることは社会と乖離していないか

#### (2) 仕事の中の学び

レイヴとウェンガーのフィールドワーク

「正統的周辺参加」: 新参者である徒弟は、仕立屋たちの「実践共同体」に  
周縁的に参加し始め、だんだん「十全的参加者」になる

#### (3) 学習における援助

ヴィゴツキー

「最近接発達領域」: 周囲の援助なしにひとりではできるレベルと、ひとりではできな  
いけれどちょっとした援助があればできるようになるレベル  
との間の領域

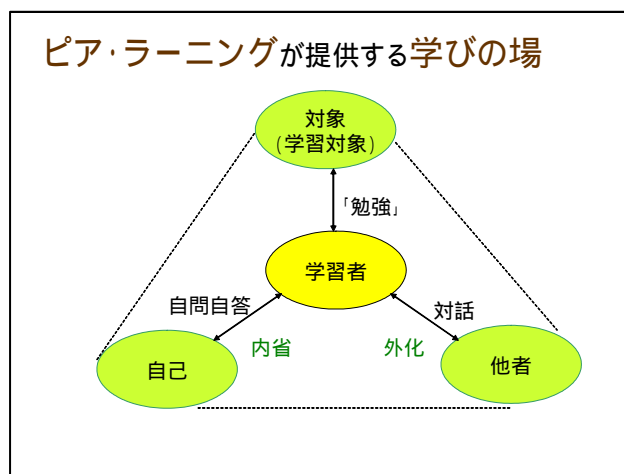
#### (4) 学習に関する心理学の変遷

行動主義心理学 認知心理学 構成主義 社会的構成主義

### 3. 日本語教育における「教育観」の変遷

- ・重視する点が変わってきた(言語構造 教授法 学習法)
- ・学習は学び手自らが構成するもの 教師は支援者
- ・「対話」による学習

#### 4. ピア・ラーニングが提供する学びの場



#### 5. ピア・ラーニングにおける教師の役割

三位一体の「学びの場」作り + 「外化=内省」の促し

- ・ 学びのデザイナー
- ・ 知識を伝授するインストラクター
- ・ 自律的学習の育成を支援するコーチ、トレーナー
- ・ 学びを実践し促進するファシリテーター
- ・ 学習環境のコーディネーター

#### 参考文献

- Freire, P. 1970. *Pedagogy of Oppressed*. New York: Harder & Harder  
(小沢有作ほか訳 (1979) 『被抑圧者の教育学』 亜紀書房)
- Granott, N. 1993. Patterns of Interaction in the Co-Construction of Knowledge: Separate Minds, Joint Effort, and Weird Creatures. In Wozniak, R.H. and Fisher, K.W. (Eds.) *Development in Context*. Hillsdale, NJ: LEA.
- 池田玲子・館岡洋子 (印刷中) 『ピア・ラーニング入門』 ひつじ書房
- Lave, J. and Wenger, E. 1991. *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*. Cambridge: Cambridge University Press.  
(佐伯胖 訳 1993 『状況に埋め込まれた学習』 産業図書)
- 中村和夫 (2004) 『ヴィゴツキー心理学 完全読本』 新読書社
- 館岡洋子 (2005) 『ひとりで読むことからピア・リーディングへ - 日本語学習者の読解過程と対話的協働学習 - 』 東海大学出版会